



こころの虹

OIKAWA HOSPITAL INFORMATION KOKORO no KAKEHASHI

- ホームページ URL <http://www15.onn.ne.jp/~oikawahp/>
- Eメールaddress oikawahp@oa.mbn.or.jp

編集・発行

医療法人 にゅうわ会

及川病院

〒810-0014

福岡市中央区平尾2丁目21-16

TEL 092-522-5411

No. 11 2007年1月 発行

基本理念

及川病院のめざすこと、その役割と大切なこと

親切

私たちは親切な対応とわかりやすい説明を心がけ、患者様の身になって行動しています。

信頼

私たちは患者様の一日も早い快復、社会復帰を願い、信頼され、心の通い合う医療に努めています。

専門

私たちは乳癌の診断から治療、緩和ケアまでを担う専門病院として、女性の生涯にわたる心身の健康を総合的に守ります。

進歩

私たちは常に新しい医療・療養環境を学習し、分析・反省を繰り返し、より優れた医療の提供を目指し進歩し続けます。

『病院の使命を果たすことを考え続ける毎日でありたい』

院長 及川 達司

あけましておめでとうございます。

2007年、平成も既に19年目を迎えました。その間経済の景気不景気に関係なく世の中は動き続けており、昨日の常識は明日には化石化するほどの勢いさえ感じます。

医療の世界でも同様で、疾病構造も変化しますし治療法のガイドラインの研究も進みます。医療経済も毎日のように新聞紙上を賑わせている通り、まるで違う国の制度のように変わりつつあります。

しかし、変わらないものがあります。それは意に反して病を患い、それと戦う人生を送られている方々がいらっしゃるということです。新薬が出て、新しい機械が出て、病気は「ゼロ」にはなりません。保険制度が変わることで身体が楽になるものでもありません。情報が手に入りやすくなり選択の余地が増えても、結局は患者様と私達医療者が向き合っていくことは何ら変わっていないのだと思います。私達もつい世の中に付いていこうとすることがあります。しかし、患者様が前にいらっしゃる時に私達がすべきことは何も変わらない。いやもっともとその技術力、説明力を高め、本来の使命を高いレベルで提供しなければならぬと考えます。

常に原点に回帰し「今すべきことは何か」を考え続ける及川病院でありたいと思います。



緩和ケア病棟2周年を迎えて

平成16年11月に当院は緩和ケア病棟を開設しました。最初は手探り状態でしたがそれから2年、当院の理念に基づいて緩和ケア病棟らしく形が整ってきました。今回、記念行事として昭和大学横浜北部病院呼吸器センターより高宮有介先生をお招きして「生きるということ～緩和ケア病棟の安心と安全の観点から～」の講演をしていただきました。

次ページへ続く

高宮先生が経験されたこれまでの症例を元に『緩和ケアとは何か』から始まり、死を感じ取っている患者様の心理状態、カナダのエドモント地域の緩和ケア紹介、日本の緩和ケアチームの現状と問題点などなど緩和ケアに関する様々な観点からの講演をしていただきました。

末期の患者様は死を覚悟している、そのため大切なときに精神的孤独にならないように支え、サポートしなければならないことを強く感じました。

高宮先生の講演の後にパネルディスカッションを行いました。様々な質問が出て緩和ケアへの関心の高さを感じた次第です。118名と多数のお客様を迎え講演会を開催でき、緩和ケア病棟のこれまでの2年間を表すことが出来たと思います。



高宮先生



及川院長



パネルディスカッションの風景

今回、このような講演会を開催するに当たり多忙な時間をこの会のために時間を割いて講演をしていただいた高宮先生に心より感謝します。また病院スタッフ全員の協力のもと無事に終了できました。今後もみなさまのために緩和ケア病棟をよりよいものへと作り上げていけるよう努力してまいりたいと考えています。

顧問

野村雍夫

妊娠とくに早期の初回妊娠が乳癌の発生に保護作用があることが動物実験や疫学的調査で確かめられています。乳腺の上皮細胞の基になる幹細胞（ステムセル）は非妊娠の女性では発癌刺激に感受性が強いのですが、妊娠により抵抗となることがマウスで最近発見されました。若年の妊娠は乳癌リスクを低下させることが知られていますが、多くの国で妊娠年齢が遅くなるか妊娠しない傾向にあるときに、10代または20代初めで妊娠せよという提案は不可能でありましょうか。その代わりに一時的なホルモン操作による偽妊娠が乳腺上皮細胞に保護的な効果を示すと考えられ、米国で乳癌リスクの低下が可能なことが示唆されました。

食事習慣やライフスタイルも乳癌リスクに影響します。体重減少や脂肪摂取の低下がエストロゲンレベルを減少し、乳癌リスクを低下します。しかし、ダイエットによる体重制限や脂肪の制限は長期間必要であり、10年以上続けることはほとんど不可能です。

酒、タバコとの関係はどうでしょうか。53件の飲酒と乳癌リスクの試験の総合解析では、アルコール摂取は明らかに乳癌リスクを上昇しました。タバコは乳腺細胞のDNAを傷つける可能性があります。疫学的研究でははっきりしません。いずれにせよ、食事習慣やライフスタイルを変えることは容易でなく、これにより乳癌の発癌を抑えることは困難でしょう。

最近では、大豆イソフラボンなどの植物性エストロゲンに関心が集まり、テレビでの捏造問題までありました。植物性エストロゲンは植物に由来するフラボノイド様化合物で、構造的または機能的にエストロゲンに類似し、ステロイドでないにもかかわらずエストロゲン活性をもちます。植物性エストロゲンはエストロゲン活性のために腫瘍形成性と抗腫瘍活性が報告されていますが、生体内の環境により反対の抗エストロゲンとして働くことがあります。大豆のイソフラボン、茶のカテキン、ブドウや赤ワインに含まれているレスベラトロール、ブドウの種子のアントシアニンなどのポリフェノールが化学予防効果があると主張されています。これらは、試験官内で乳癌細胞の増殖を刺激または阻害したという報告が多くあります。そのいくつかはネズミの乳癌の発癌を抑制するという報告があります。

イソフラボンがヒト乳癌の化学予防として有用である可能性があるとしても、その種類、使用量、投与期間、閉経前後などの因子、また消化管での吸収率、代謝・排泄率などに個人差があり、エストロゲンとして働くか、抗エストロゲンとして働くかは不明です。また、アジア地域での大豆の消費と乳癌リスクに関する試験で、大豆の消費量の増加とともに、乳癌のリスクが低下したという報告がありますが、無関係であったという報告もあります。さらに、植物性エストロゲンがヒトにおいて乳癌の発癌を予防したという大規模な試験は行われていません。したがって、ほとんど全ての健康食品と同じく、イソフラボンが乳癌を予防するという証拠はありません。

今回は実際に抗エストロゲン剤が乳癌の発癌を抑制したというお話をします。



乳がん術後

リンパ浮腫マッサージの お知らせ。



乳がん術後に気をつけたい「リンパ浮腫」。それでも発症した場合に、少しでも改善するためにマッサージが有効です。

当院では、リンパ浮腫マッサージに造詣が深い「瀬戸鍼灸院瀬戸治院長」のご協力を得て、院内にてリンパ浮腫マッサージの提供をしております。

リンパ浮腫を減少させ維持し、又、浮腫の発症を予防してゆく上で重要なのは、リンパ浮腫を正しく理解することです。そこから、日常生活上の自己管理を十分に認識する事により、浮腫の発症、悪化を予防してゆくことにつながります。

リンパ浮腫は完治するものではないので、発症予防の為や発症後の生活の質を改善し維持する上で、毎日のケアの継続が必要になります。

現在既に浮腫でお悩みの方、また発症予防をお考えの方のお役に立てればと考えています。

*** 乳がん術後リンパ浮腫マッサージ治療 ***

診察日：毎月第2・第4水曜日。午後2時～6時。予約制。

ご予約は及川病院受付にて承ります(TEL 092-522-5411)

場 所：及川病院外来。来院時は当院受付にお申出下さい。

担当医：瀬戸鍼灸院 瀬戸治院長

料 金： 無 料